

晩秋の久住高原歩こう会

秋も深まった 11 月 23 日、今回歩いたのは久住高原です。参加者は 7 組のご夫婦を含む 30 名。前日の真冬並みの寒波から一転して 10 月の暖かさに戻り、歩き日和に恵まれました。



大分駅を 8:30 に出発し、まずはバスで竹田市のガンジー牧場まで行きます。車中、歩こう会幹事の渡邊新十郎さん（大 16 回）からの挨拶とコース説明に続き、参加者の近況報告。事前に歩く練習をしてきたという人、日常を語る人、歩こう会への期待、家庭菜園の自慢、忘年会への参加募集もありました。曇り空の下、黄色く色づいた木々や農村の景色が車窓に続きます。久住高原に差しかかると霧も出てきました。

ガンジー牧場には 10 時前に到着。ここで 4.4km を歩く A 班と 2km の B 班に分かれました。何と B 班を選んだのは僅か 3 人、大半の人は長距離組となりました。B 班はバスで更に先まで行った後、歩きます。目指すのは「くじゅう花公園」。芝の生えた歩道を行く快適なウォーキングです。曇っていて、くじゅうの山並みは見えないものの、風はなく、周りの草花を眺めながら歩きました。野グミを採って食べたり、烏瓜らしきものを手に取ってみたり、小休憩を挟んでのんびりと、しかし登り坂では少し息を弾ませて歩きました。途中、汗ばんで上着をぬぐ人も。

A 班は 11:40 に花公園に到着し、先着の B 班と合流しました。ここで持参のお弁当を開いて昼食です。公園内の飲食店で食べる人もいました。前日まで、朝はびっしり霜が降りていたとのことで、花はほとんど枯れてしまったお花畑を思いおもいに散策。それでも温室内では色鮮やかな花々が咲き乱れていました。出発前にゲートの内側に全員並び、木山広喜さん（大 10）の揮毫による「晩秋の久住高原歩こう会」と書かれた横断幕を広げて記念撮影。12:20 にバスに戻り、花公園を後にしました。

次に立ち寄る「道の駅清川」までの 30 分余り、木山さんのハーモニカ伴奏で、団塊の世代以上の人たちが子供の頃に親しんだ唱歌などを童心に戻って歌いました。途中、源頼朝と久住高原の関わりを記した石碑に立ち寄って、この高原の歴史に思いをはせました。

道の駅清川は駐車場が満杯になるいつもの賑わいを見せていました。全国に千か所以上ある道の駅の中でも高い評価を受けている駅です。多くの方が野菜や饅頭などを求めました。

最後は千歳村の藤居醸造を訪ねました。待っていてくれた藤居淳一郎社長の案内で二組に分かれて蔵（焼酎の製造工場）を見学しました。減圧蒸留と常圧蒸留の違い、麦の香りを残すための装置など、大手の焼酎会社と差別化を図って生きる道を追求する小規模メーカーの挑戦を知りました。全員が俄か焼酎通になり、試飲もさせていただいて、本日の歩こう会締めくくりのイベントとなりました。

バスが大分に着く前、幹事の丸井弘美さん（大 10 回）が楽しかった本日の行程を振り返り、次回の参加を呼び掛けて歩こう会を終了しました。盛りだくさんのメニューを効果的に消化した一日でした。解散は 15:40。

事前のコース設定に知恵を絞り、当日は先導役としてご尽力いただいた 3 人の幹事（渡邊新十郎、丸井弘美、松井一博）の方々と、ご参加くださった会員みなさんに感謝します。

